



霊がこもる山 ～弥谷寺信仰遺跡～

三野町大見地区にある四国霊場第71番札所、弥谷寺は、平安前期創建の古刹で、弥谷山に抱かれるような立地にある山岳寺院です。木陰が多く夏でも涼しさが漂う中、中腹にある本堂まで上ると喧騒も薄れ、まさに霊場と呼ぶにふさわしい荘厳な雰囲気を感じさせます。周辺の村々には、古くから死者の霊は近隣の山を「すみか」とするという民俗信仰が根付いており、弥谷寺を含む山全体がその中心として信仰の対象となりました。

特に、仁王門から灌頂川(三途の川)へと続く「賽の河原」、昼なお薄暗い岩窟の中にある「獅子窟」、水の枯れたことのない「水場」と大小無数の「五輪塔」、本堂に至る途中の岩壁に刻まれた「比丘尼谷の磨崖仏」の5カ所は県の史跡に指定されています。

石段を上がると、色とりどりのよだれ掛けをつけたお地蔵様や、先立った子の極楽往生を祈る積み石、五輪塔が見られ、一部の地域では葬式が終わると亡き人の霊を伴って、遺髪や着物をお寺に納める「弥谷まいり」の風習が残っています。

今月の市民力

『大地と語り合う会』で精力的に栽培しているボイセンベリー。まだまだ知名度の低い果実ですが、健康志向の高まりに合わせて、次第に需要が増加。また、少しずつですが県外のスーパーなどとも契約して販売ルートもできてきました。土と水と少しの労力があれば誰でも作れます。三豊市がボイセンベリーの産地に成長できるように皆さんも作ってみませんか。

